

令和5年度学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	生徒の個性を伸ばし、質の高い多様な進路を実現させる学校
--------	-----------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> きめ細かい進路指導を通して、個々の希望進路の実現に向け粘り強く取り組ませる。 工夫された授業を通して、主体的に学習する態度と進路実現のための真の学力を身につけさせる。 社会性や協調性を身につけ、より高い目標にチャレンジできるたくましい精神を育む。 開かれた学校づくりを推進するとともに、庄和高校の魅力が伝わるように情報発信する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価 (2月1日現在)	
年 度 目 標					年度評価 (2月1日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<現状> ○3年間を見据えた進路指導行事が計画的に行われている。 ○各教科及び就職支援アドバイザーとの連携し、個別に丁寧な対応がなされている。 <課題> ○主体的に進路活動を行い、意欲的に挑戦する生徒の育成が課題である。	○自己の進路について主体的に考え、より良い進路選択ができる力を育成する。	①講演会実施後や、模擬試験や適性検査の受験後の振り返りにより、自己分析をさせる。 ②朝学習を活用し、基礎学力の向上及び表現力トレーニングを実施する。	①満足できる進路活動を行うことができたか。(生徒アンケート) ②各種検定の受験状況及び合格状況。 ③志望理由や自己PRの場面で適切に表現する力がついたか。	評価項目について目標を概ね達成できた。 ①生徒アンケートにおいて、満足できる進路活動を行うことができた生徒は約89%(昨年度比3%減)。 ②漢字検定15名受検、準2級以上合格者3名。英語検定準2級以上68名(20.4%)受検(昨年度65名(20%)受検)。 ③表現力トレーニングは朝学習を活用して実施。	B
2	<現状> ○Google Classroomを活用した授業が各教科で行われている ○教員相互に授業見学を行い、授業力を向上させる意識は醸成されている。 <課題> ○1人1台情報端末の導入初年度であり、各教科で効果的な活用方法について検討が必要である。	○教員の授業力を向上させ、生徒に「主体的に学ぶ方法」を身に着けさせる。	①教員相互による授業見学を推進し、ICTを活用した授業研究を行う。 ②1人1台情報端末の活用事例等を職員全体で共有する。	①授業公開週間を年2回以上実施する。 ②各教科での取組事例を職員全体で共有できるシステムを構築する。 ③②主体的に学ぶ(授業に積極的に取り組む)生徒が増加したか。(生徒アンケート)	評価項目について目標をほぼ達成できた。 ①教員相互の授業公開週間を2回実施し、うち1回は実施後に研究協議を実施した(昨年度は未実施)。 ②Google Classroomの活用回数は増加。活用方法について教員同士で情報共有を実施。 ③①②生徒アンケートにおいて、積極的に授業に取り組むことができた生徒は約96%(昨年度比1%増)。	A
3	<現状> ○感染防止対策を徹底しながら保護者や中学生の来校を緩和することができた。 ○学校行事等に主体的に取り組んだ生徒は約96%であった。 <課題> ○登下校中の交通ルールやマナーに関する苦情がある。	○学校行事や部活動に主体的に取り組ませ、社会性や協調性を身につけさせる。	①生徒主体で各学校行事を企画、運営する。 ②担任と部活動顧問の連携を強化し、部活動の継続や積極的な参加を促す。	①生徒が主体的に各行事に参加できたか。(生徒アンケート調査) ②部活動に加入する生徒の割合が増加したか。(部活動状況調査)	評価項目について目標をほぼ達成できた。 ①生徒アンケートにおいて、積極的に行事に取り組むことができた生徒は約98%(昨年比2%増)。 ②部活動加入状況調査を定期的実施。生徒アンケートにおいて、積極的に部活動に参加した生徒は約75%(昨年比3%減)。	A
		○学校内外における規範意識を醸成する。	①苦情に対する改善点をより具体的に指導する。	①交通ルールに関する苦情件数が減少したか。	評価項目について目標を概ね達成できた。 ①苦情件数は8件(昨年度11件)であった。	B
4	<現状> ○新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえ、学校説明会、個別説明会、部活体験を実施することができた。 ○小中学校や地域との連携を再開することができた。 <課題> ○志願者数確保に向け、本校の教育活動に興味関心を持ってもらえるような情報発信が必要である。	○学校説明会等の来校者数を増加させる。	①学校説明会等において、生徒の活躍の場を増加させる。 ②春日部東ブロック小中校連絡協議会や地域との交流事業の実施及び地域の行事に積極的に生徒を参加させる。	①生徒の協力者数、生徒の活躍する場を増やすことができたか。 ②交流事業参加者数及び地域の行事への参加者数が増加したか。	評価項目について目標を概ね達成できた。 ①学校説明会において、部活動の生徒による誘導案内、生徒会生徒による学校紹介、在校生による参加者との交流を実施。 ②地域のイベントに複数の部活動の生徒が積極的に参加(大風マラソン、産業祭、公民館祭、交通安全フェア、南桜井駅前イルミネーション)	B
		○ホームページのアクセス数を増加させる。	①学校ホームページの更新による積極的な情報発信をする。	①学校ホームページの更新回数が増加したか。	評価項目について目標をほぼ達成できた。 ①ホームページの更新回数は259回(4月から12月、昨年度比3回増)。生徒の様子がわかりやすい授業風景などを中心に掲載した。12月15日現在の進学希望調査では希望者倍率1.16倍(昨年度1.00倍)。	A

学校関係者評価	実施日 令和6年2月1日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> 進路は高校に求められている重要な項目であり、今後も3年間を見通した計画を立てて実行してほしい。 キャッチフレーズにあるように、進路決定だけでなくその先の将来を見据えた指導を意識することはとても重要であると感じる。 教員同士での学び合いは、ぜひ継続していただきたい。 端末の効果的な活用については引き続き検討を進めてほしい。 端末を使用した授業は生徒同士の会話も多いと感じる。 学習意欲向上に繋がる取組として大学生と高校生の交流の場の設定等を検討してはどうか。 文化祭などの行事において、地域との連携なども考えられるが、高校生にしか思いつかないような発想があることも大切にし、よりよいものにしてほしい。 生徒の姿が学校の魅力そのものである。生徒の活躍や頑張っている姿を積極的に発信してほしい。 地域との連携においては、主催者からの依頼に応えるだけでなく、主催者と共に企画段階から参加することなどで生徒の成長につながるのではないかと検討してほしい。